

町長室から

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が2月末で首都圏以外は解除されましたが、北海道では感染者が増加傾向にあるため、独自の対策は継続されています。

まだまだ気を休めることはできません。

3月8日は国連が決めた「国際女性デー」でした。

女性に対する差別撤廃や社会への完全で平等な参加に向けた環境整備を目指していくことを目的に定められましたが、現在さらさらに進んで「ジェンダー」つまり、生物学的性別に対して、社会的、文化的につくられる性別の差別をなくしていく事が求められています。

東京オリンピック組織委員会での森会長発言が「ジェンダー」問題、つまり女性への差別発言で国際的に糾弾されました。

森元首相の発言は論外ですが、世界経済フォーラムが男女間の様々な差別を表す「ジェンダーギャップ指数」というものがあり、2020年発表した統計では日本

は153カ国のなかで121位でした。

先進国の中で、この順位はかなり低いと言わざるを得ません。

実は私たちも無意識のうちに何気なく発言したりして、ジェンダーに反するものがあるかもしれせん。

セクハラやパワハラは自分がどう思っているとも相手はどう感じるかで成立すると言われますが、ジェンダーについてもしっかりと考えて一人ひとりが自らに問いかけてみる必要があることを改めて考えさせられました。

4月1日から「浦幌幼稚園」と「しらかば保育園」が一体化して東山町4番地に「浦幌町認定こども園」が開園します。

愛称は公募で決定した「こどもセンター」と「こども子育て支援課」も同園に移動します。

園内はスペースも広く、最新式の床暖房とエアコン、トイレや新型コロナウイルス感染症対策も取り入

れていますので、愛称の通り子ども達にここにこしなから登園してくれるのが楽しみです。

旧浦幌幼稚園は学童保育所として再利用する事になりますが、しらかば保育園は近い将来解体する事になります。

先日、厚内寿大学の生徒さんたちから認定こども園に心を込めて作製した千羽鶴2体と雑巾・タオルが贈呈されました。

感謝を込めて受け取りましたが、きっと子ども達も喜んでくれるでしょう。

3月11日は東日本大震災が発生してから10年目を迎えました。

被災者に心からご冥福をお祈りしましたが、この災害では2万人以上の方が亡くなり、2500人以上がいまだ行方不明ですし、併発した福島原発事故で住民がいまだ帰れない地域があります。

更に福島原発の廃炉作業はまだ30年以上かかると言われるなど、10年たつて災害が風化するどころか現在進行形で進んでいます。

2月13日に福島県沖で起きたマグニチュード7.2の地震が東日本大震災の余震と発表されて驚きましたが、十勝沖での大地震発生の可能性も指摘されています。

近年風水害などの自然災害は想定できないほど大規模で頻繁に発生しています。

浦幌町は「地域防災計画」を立て防災の理念を「町民・地域・町の防災を高め、災害に強く、安心安全に暮らせる浦幌町」として町づくりを進めています。突発的な災害に対しては自らの身の安全は自らを守るというのが基本です。

これを機に町民の皆様には風水害に対する安全対策や大地震による津波への避難対策などの備えを十分にいただくとともに、お願いしますと同時に、まだできていない町内会には「自主防災組織」の設立を改めてお願いいたします。

浦幌町長 水澤一廣

連載
120

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部

教授 平岡祥孝

ようやく待ちに待った早春の季節を迎えますね。また、言うまでもなく年度末・年度初は異動の季節でもあります。「一億総活躍社会」や「生涯現役社会」が叫ばれる昨今、セカンドキャリアなるカタカナ語も人口に膾炙してきました。「人生100年時代」とも呼ばれるようになり、雇用期間も65歳を越えて70歳まで働く時代を迎えつつあります。

人材確保は、企業にとつては中長期的な課題とも言えます。女性の社会進出は当然のことながら、外国人労働者とともに高齢者の労働参加は、ますます需要が高まるのではないのでしょうか。2020年12月にパーソナル総合研究所と中央大学が発表した調査によれば、2018年の労働力率は、60〜64歳では70.6%、65歳以上では24.7%でした。また、2021年1月に厚生労働省が発表した調査によれば、65歳まで働くことができる制度を整備している企業は全体の99.9%でした。しかしながら、66歳以上でも働くことが可能な制度設計がなされている企業は33.4%でした（『日本経済新

聞』2021年2月16日）。

コロナ禍にあつても、新卒の優秀な人材確保は必要不可欠でしょう。それに加えて、定年後の継続雇用（とりわけ60歳代前半世代）された人材を如何に活用していくかが、企業の人事政策としては極めて重要です。明日は我が身の私としても、雇用形態が異なる多様な世代が働く職場について考えた次第です。継続雇用されて組織から喜ばれてこそ、働き甲斐があるし、それが生き甲斐にもなると思います。そのためには何が求められるのでしょうか。あくまでも私の独断と偏見ですが、EQ（感情指数）面では人望と利他心を有し、IQ面では自らの立場を自覚して身のほどをわきまえることに尽きると、私は考えます。

現役時代には、上司から信頼されていることもさることながら、部下や後輩から敬愛されていることが前提ではないでしょうか。何ら仕事能力は認められないものの、いわゆる処世術や遊泳術に長けているだけで残してもらい、見せ掛けの肩書きだけで情眼を食う輩も少なからず。ですが、彼ら彼女らからは「何も仕事をしないね」「早く辞めて欲しいよ」「何で残ったのかなあ」と陰口を言われ、内心では軽蔑の対象となつていくでしょう。

何度も仕事上の修羅場を落り抜け、豊富な仕事経験を持ちながらも、

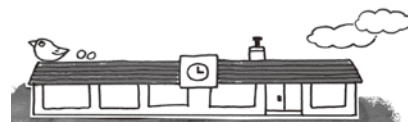
控えめで謙虚さを感じさせる雰囲気を持ちたいものです。まずは余計な口を挟まずに、黙々と与えられた仕事に専念すべきでしょう。けれども、上司や同僚から一旦求められれば、相談相手となったり、助言者となったりして、これまでに蓄積された経験値や知恵を生かしつつ、精一杯お手伝いさせていだけ。闇のメンター、裏のアドバイザー、影のキャリアコンサルタントに変身。要するに、現役に寄り添いながらも、あくまでも脇役や黒子に徹することが肝要かと思えます。危機を脱したり、成果を上げたりしたならば、現役を称えることです。

かつての部下が上司になることもあるでしょう。あるいは年下の上司の下で初めて働くこともあるでしょう。自己顕示欲と承認欲求とは無縁の世界に身を置くことです。過去の成功体験や武勇伝は自ら語らなくとも、語り部による「伝承文学」を通して、実績と信用は浸透していきます。「私でもお役に立てれば幸いです」という気持ちを忘れないことです。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

Tokomuro Lab 通信 vol. 13

浦幌町字常室 51-1
Tel: 015-578-7580

【開校時間】

定休日 月曜・火曜・水曜

<ラボ> 10:00-17:00

キッズスペース(無料)やフリースペース、コワーキングスペースをご利用いただけます。校内の見学やイベントの開催のご相談…承ります!

<カフェ> 土曜・日曜

11:30-15:00 ランチタイム
(14:30ラストオーダー)

校庭を眺めながら、うらほろ食材の美味しいお料理でリフレッシュ。珈琲一杯からお気軽にどうぞ!

こんにちは!地域おこし協働隊・常室ラボ担当の青木です!

自然や生き物が身近な環境だからこそ、都会に住んでいたころよりも季節の変化を実感しやすいな〜と日々感じています。

第一次産業に携わっている方々はきっと更に早いスピードで感じているのでしょうか。

雪が降り積もりつつも、春の気配を少しずつ感じてきた2月・3月は常室ラボを利用してくださる方も増えてきました。

12月に常室ラボ内に設立したデジタル森林浴を楽しめる『うららパーク浦幌』を訪れる方々やワークショップ(ワーク+パケーション)のモニターツアー、そして常室ラボ発信イベント・コラボイベント(コーヒーとスイーツのペアリング、かご編みワークショップ、旅する読書会、お洋服販売とおにぎりの日…etc)の参加者の皆さま、と本当にたくさんの方々とお会いできて毎日充実した日々を過ごさせていただいています。

引き続きイベントや新たな取組みを通して皆さまに充実した時間を提供していけるよう精進いたします!